

③5 大見 為次 Ⅲ



大見為次の胸像  
(JAあいち中央新田支店)

県議会議員大見為次が所属していた政友会は、一九四〇年（昭和一五年）夏に解党し、秋には大政翼賛会に入った。そして終戦を迎えた。一九四七年（昭和二二年）四月には衆参両院議員選挙、それに第一回統一地方選挙が行われ、これに向けて三月には民主党（総裁芦田均）が結成された。為次はこれに入り、民主党の県議会議員となった。同年四月五日の安城町長選挙に立候補し当選。同月三〇日の県議会議員選挙にも再出馬、両方に当選している。

このとき国政は吉田茂内閣（日本自由党）

の時代だが、県議会では六十九議席中四十六議席を民主党が取った。議長席は当然民主党が得たが、副議長席を野党に渡せ、渡さぬの大混戦。結局、民主党が独占した。K・I議員が「我が県会は今くばり雑言の中に進められている」と発言したほどだった。このとき議長に選任されたのが為次だった。地方議会が行政から独立、議長は議会を代表すると明記する地方自治法が制定されて最初の議長だった。一九四九年（昭和二四年）五月には再任され、翌年八月まで三年三か月務めた。

為次の町長・県議会議員兼務時代は日本列島全体でいえば食糧難時代だが、農村碧海郡安城町は相対的には財政に余裕があった。一九四九年（昭和二四年）十二月、中部日本新聞が「碧海に新築続々、農業王国安城の底力」と報じた。商工館や警察庁舎のことである。

一九五〇年（昭和二五年）十月、愛知県を会場にした国民体育大会が終わると、安城では町民の関心が急に市制施行是非論に移った。為次は、一九五一年（昭和二六年）四月には県議会議員を辞職して町長選挙に再出馬し、自由党系の候補と激しく戦い、再選された。市制施行については、「日本一小さい市であるよりも、日本一大きい町の方がよい」「安城にはまず農村計画の確立を」などの意見があったなかで、為次は「田園都市構想」を打ち出した。為次は、町の集会で「田園都市というのは農村生活の中に都市的文化の恩恵を十二

分に取り入れた理想農村」と説明している。そして翌年五月五日に安城市が誕生し、為次は初代市長となったのである。

一九五五年（昭和三〇年）の市長選挙では前回と同じ系列の大物候補と激戦、僅差で再選を果たした。その後、一九五九年（昭和三四年）の市長選挙に立候補したが、前回と同じ二大勢力の票取り合戦となり、新しいことに積極的な日本デンマークの住人は、僅差で新市長を選んだ。

為次は、一九五九年（昭和三四年）正月号『広報』に十二年間行ってきた町政・市政を「：予算で農、商、工、勤労者が互いに厚薄のないように、然も地域的にも均等に施策するためには実際むづかしい：が『産業の発展文化の向上は道路の改善から』をモットーに砂利置き舗装の延長：環境衛生の面から道路側溝の整備を進め（て来た）：」と書いている。「文化」「均等」という文字が見えるのが彼の特色であった。為次の田園都市構想は、彼が青年時代に双葉舎の先輩たちと考えていた「農村にも文化を、暮らしの向上を」という希望そのものだった。それは工場誘致時代になっても、地域の活性化という名で受け継がれていった。

為次は、政治から退いた後も、全国農林共済組合連合理事などを務め、一九六二年（昭和三七）五月病没。享年六十八歳であった。

文 天野暢保